

# 同窓生シリーズ 第85回

## 15回生 辻村 國弘 Kunihiro Tsujimura



### 略歴

1944年 6月23日 東京生まれ  
 1968年 東京大学・経済学部卒業 NHK入局  
 福島放送局に赴任  
 1972年 TBS（東京放送）に移籍  
 1976年 テレビ報道「ワイドニュース「テレポート6」でレポーター兼  
 ディレクターを担当  
 1980年 TBSのドキュメンタリー番組「報道特集」のスタートと共に、  
 ディレクターを担当  
 1989年 「筑紫哲也ニュース23」スタートと共にデスク担当  
 1993年 同番組プロデューサーに…  
 1996年 番組「世界遺産」スタートと共にプロデューサーに就任  
 2006年 番組「世界遺産」シリーズ オンエア10周年を機に退職。その後も  
 「世界遺産」啓蒙の為講演や原稿の執筆などを続けている  
 2010年から 近畿大学 総合社会学部客員教授

### 新宿高校と私

半世紀ほど前、この学校を選んだのにさほどの事情はありませんでした。私の住む目黒区駒場から新宿駅南口まで直通のバスが通じていたからです。行きも帰りも座っていない、それだけのことで即決しました。物事を気楽に考えていたのでしょう。もともとその後、住まいの目と鼻の先の駒場高校に同期の吉永小百合さんが通っておられると知って選択を深く後悔しました…。

高校時代はサッカー一筋。当時のサッカーの部室は校庭隅のプール裏手の地下。恐ろしく暗く汚いスペースでしたが、昼の弁当から着替えまで一日の大半をそこで過ごしていたような気がします。

部室の前には大きなイチョウの木がありました。少々柄の悪かった先輩たちは、秋になるとせつせと落ちた銀杏を拾い集めて土に埋めていました。冬になると掘り出したそれを焚き火で焼いて食べていたのを鮮明に覚えています。今だったら校内では絶対に許されないことだったでしょうが、あの当時は何かそんな悪さを、大目に見ていたような雰囲気があったような気が

します。新宿高校らしさ、とでも云えばいいのでしょうか…。サッカーと同時に、私が夢中になったのはもう一つ、テレビでした。当時勢いを増していたテレビは様々にユニークな番組を生み出していました。私がとりわけのめりこんだのは、ドキュメンタリーの世界でした。時代の大きな流れを克明に写し取り、人間の喜怒哀楽を伝えるのにテレビというのはこんなにも力のあるものか、と痛感しながら毎日ブラウン管に見入っていたものです。

### 高校卒業後、ドキュメンタリーに魅せられて

そのまま、大学時代も映画青年だった私は、ドキュメンタリーを夢見て放送局の門を叩くことになりました。そうして入ったTBSで35年もお世話になりましたが、その間に「報道特集」「筑紫哲也ニュース23」そして「世界遺産」と、今も続く名番組に係わることが出来、充実した人生を過ごしたと思っています。

特に最後の10年間、「世界遺産」のプロデューサー時代は思い出深いものがありました。

「世界遺産」のプロデューサーといえばなんだか偉そうで、あちこち外国に行けて羨ましいしなどと思われそうですが、実際は苦労の連続です。限られた予算の中で格安チケットを使い、星ひとつない安ホテルで世界中を泊まり歩く四つも五つもの撮影チーム。病気や事故の心配をしながら連絡を取り合うのは、まるで息子を東京に送り出した田舎の母親の心境です。そんな気持ちで読んだ地球の裏側からの一つのメールをご紹介します。少々長い引用になりますが、テレビ番組というものの裏側を知って頂く一助になるかと思えます。

「ブラジル・ペトロリーナは熱帯夜。昨夜21時の段階でまだ38度あった。その前の晩まで、アルゼンチンは朝晩零度近くだったから、もう、気温差40度の、いきなり天然サウナ状態。逃げ場ナシ。体がついていかない。ホテルの部屋も、エアコン入れても全く効果ナシ。起立すると足首あたりだけに普通の気温になっていくが、その上はサウナ状態。大汗かいて、眠れずにうんうん唸って、シート一杯に這い回る小虫を払って、また眠ろうと努力して、そうこうしている内に5時間経って、もう、朝。こうなりやせめて日本に電話でも、と思って受話器をとれば、「00」と回した途端に切れてしまいます。

このメールに気付いた方、お電話下さい。このままではなんだか耐え切れない、夜でございませう。あと3時間で、カピバラへ向かって出発。6時間の車旅です。小錦みたいな運ちゃ

んは、5年はシャワー浴びてない感じで、空港から宿までの20分間、車内は窒息しそうでした。かといって、窓を開ければ熱波。6時間。不安。」

その程度じゃまだまだ甘いと言われるかもしれませんが、この人たちは一度の取材で丸々一ヶ月、番組三本分をこなして、それを年に3回続けているのです。プロデューサー黙って頭を下げるしかありません。

学生時代にのめり込んだというドキュメンタリーの世界へ飛び込み、数々の名番組の制作に携わられた辻村さん。お話から、ディレクターという華々しい職業の裏側にある大変な苦労が伺えます。そして、番組の美しい映像が撮影チームの涙ぐましい苦労の賜物であることを教えてくださいました。

二〇〇六年、番組十周年を機にご退職され、その後も「世界遺産」啓蒙の為、講演や原稿の執筆などを続けていらつしやるそうです。

現在、近畿大学の総合社会学部客員教授をされている辻村さんより、現役の新宿生へメッセージをいただきました。

### 新宿生へのメッセージ

これが好きだ、これをやりたい、こんな仕事につきたいという、その気持ちを大事にして下さい。

そのエネルギーが力なのです。

その心の力を信じて前に進んで下さい。

「世界遺産」は一九九六年から現在も続く長寿番組で、PTAが子供に見せたい番組上位常連の番組でもあります。

TBSの公式サイトには辻村さんが携わった10年間を含む全ての放送内容が掲載されています。年度別、地域別に放送内容を確認することが出来ますので、是非辻村さんのお話を思い浮かべながらご覧になってみてください。

※「世界遺産」は二〇〇八年より「THE 世界遺産」とタイトルを変更。TBS系列で、毎週日曜日の18:00-18:30に放送されています。



イグアスの滝



法隆寺



マチュピチュ